

<週報No. 2,836> 2,945 回例会

2018年3月16日(金)

■会長／八幡 一成 ■幹事／北川 和彦

◆司会＝平林明 S A A

◆ゲストビジター＝諏訪赤十字病院副院長 梶川昌二様  
同副院長兼看護部長 宮坂佐和子様 同事務部長 増澤正裕様

◆会長告知・八幡一成会長＝諏訪赤十字病院様にお邪魔しての例会です。数年前にもこちらで例会を行ったことがあります。その時は最先端の医療現場を見させていただき、感心したり驚いたりしたことを思い出しました。本日はよろしくお祈りいたします。

さて、本日の会長告知ですが、ネット上の「ロータリーボイス」に「ロータリーと女性」と題して東京広尾ロータリークラブの服部陽子会員が寄稿していましたので、その一部をご紹介します。

私の所属する東京広尾ロータリークラブは来年20周年を迎えようとしています。創立当初から会員の半数は女性で、現在に至るまでその比率はほとんど変わったことはありません。男性・女性の比率だけでなく、「日本語を解さない外国人も会員として活動できるクラブ」が創立のコンセプトでしたので、アメリカ人、フランス人、ドイツ人など国籍も様々で、日本語と英語の両国語で例会を行っている多様性豊かなクラブです。入会してくる会員も皆その多様性を十分に楽しんでロータリーライフを送っています。創立会員としてこのようなクラブに入会した私にとって、ロータリークラブに女性がいることはまったく当然で、改めて意識したことなどありませんでした。それは私だけでなく、他の女性会員、そして男性会員も同じだと思います。ところが入会して2年後、周囲を見回してみれば、まだまだ男性会員だけのクラブがたくさんあることを認識したわけです。

女性ロータリアンの強さを一つ挙げるとすれば、それは「粘り強さ」かもしれないという気がします。ロータリアンの目指すところは、世界によい変化を生み出すことです。そのためには粘り強く、根気のある不屈の精神で長期的に挑むことが大切です。女性ロータリアンの存在が、これからのロータリーの発展に大きく寄与することができたらどんなに素晴らしいことでしょう。

今年の7月から2750地区のガバナーを務めることになりましたが、力を入れる目標の一つは、クラブが女性会員を増やすことを支援することです。来週行われる「会長エレクト研修セミナー」においては、女性会員増強の必要性を会長エレクトのみなさんに是非ともインスパイアしたいと思っています。

我々のクラブにも2名女性会員がおりますが、もっともっと女性会員も増やして、ガバナーが女性というのはまだ遠い先なのかもしれませんが、そんな未来が来ることを願って本日の会長告知といたします。

◆幹事報告・北川和彦幹事＝①諏訪赤十字病院の皆さんお世話になります。しっかり勉強させていただきますので宜しくお願いします。②3月3日のIMはアクトの二人を含め21名参加していただきました。午後は奉仕活動の発表ということで、我がクラブは60周年のイベントを小口泰幸会員に編集して頂き上映し、その後小口武男会員に図書寄贈についてお話を頂きました。

直前の岡谷ロータリーの発表がスターウオーズを模して派手な演出だったので、少し地味かなと思いましたが、さすが小口武男会員が迫力ある発表で、私としては安心しました。③3月30日諏訪湖ロータリークラブとの合同例会があり、午後6時半からぬのはんで行きます。④お手元に変更部分対照表(細則)があると思いますが、4月6日の例会時に総会をやりまします。規則の改選問題について議論して頂きますので、それまでに読んで参加して頂きたい。

◆クラブフォーラム・職業奉仕委員会 例会趣旨説明 山

田文雄会員＝ロータリアンは高齢者が多く、入院したりお世話になる機会が多い。私も入院し手術を受け、不安



の中で24時間ナースさん、ナースマンさんにお世話になり、おかげで社会復帰ができました。

女性の夜勤は通常ではありえないが、しかし、彼女

たちは高い職業意識の中で、昼夜を問わずに患者のために勤務してくれています。今回経験させて頂いたナースの高い職業倫理意識をどのように育てているのか、またどのように意識付けされているのか、卓話を通じて学びたいと思います。以上趣旨説明とさせていただきます。

講師紹介・大和真史会員＝山田会員のご希望で、副院長兼看護部長の宮坂佐和子がお話をさせていただきます。

8年前から看護部長を務めてくれており、550名を超える看護師を束ね率いてくれます。今日は貴重な話をしてくれると思いますので、よろしくをお願いします。



**卓話・諏訪赤十字病院副院長兼看護部長 宮阪佐和子様**  
 =今日は諏訪赤十字病院にお起こし頂きありがとうございます。そして日頃ご支援頂いていることに感謝いたします。

今日は人づくりというテーマについて、若い看護士達にどんなことを大事にしながら育成しているかというエッセンスをお伝えできればと思います。

まず、赤十字についてですが、今から約160年前にスイス人のアンリー・デュナンという方がソルフェリーノの戦いで傷ついた兵士を目の当たりにした時に、人として尊い命を救わなくてはならないということで、2つの提案をしました。平時から国際的な救護団体を作ること、その目的のために国際的な条約を締結しておくことが必要だということで創設しました。デュナンは73歳の時に第1回のノーベル平和賞を受賞しています。

今、世界190ヵ国がこの赤十字国際連盟に加入していますが、各国に一つという組織になります。

そして、赤十字の理念は7つの原則と言いますが、「人道」というのが赤十字活動の根幹になっています。他の6つの原則については、「人道」の原則を実現するために必要な原則となっ

ています。「人道」というのは Humanity ということになりますが、人間の苦痛を予防し、国際的及び国内的に命と健康を守り、人間の尊厳を確保する。それが平和につながるということを基本の考えにしています。



本題になりますが、赤十字看護師育成の原点ということをお伝えします。

国際的組織ができて約20年弱の中で、日本では西南戦争を機に、救護団体の必要性ということで佐野常民が博愛社を創設し、昨年日本赤十字社創立140年になりま

す。その佐野常民が看護師の教本を作りましたが、その中に「救護員十訓」というものがあります。基本的な救護活動を行う看護師としての心構えであり姿勢であり、使命が十訓として唱えられています。私が一番覚えているのは「勇敢にして沉着なるべきこと」で、今でも自分が仕事をするときにも必要な姿勢ということで覚えています。他のところも奥の深い十訓で、まさにこの十訓に基づいて第二次世界大戦を境にして看護師たちは教育を受けてきました。

現在、赤十字病院は全国に92の病院があります。役割は病院事業が主になりながら救護活動、看護師の養成が赤十字の大きな役割になっています。ただ、学生の育成だけではなく、管理者の育成やキャリア開発ラダーとして、段階的に教育していく仕組みもあります。特徴としては、国際救援ができるもの、教員、管理者もラダーの中に組み入れられているのも特徴の一つとなっています。

私は、看護とは「人道」を実践するということだと思っています。育み育まれる組織づくりの中で、基本の「人道」である、人も自分も大切にするという心を持ち、現場では専門的な知識・技術も必要になって来るので、そういう教育を行っていきながら、多くの患者さんやご家族、いろんな同僚等の出会いの中で、看護師はケアをする人として存在感を高め、人としても看護師としても成長させて頂いているんだと日々思っています。



**館内視察**=医師が執務する医局や、事務室などの管理部門を集約した管理棟が竣工。冷暖房を本館に送るエネルギー施設を備えた。下水管から排出する熱などを利用するシステムで、エネルギーは4月から全面切り替え予定。



#### ◆今後の例会日程

3月23日	金	準法定休日
3月30日	金	合同夜間例会
4月6日	金	クラブフォーラム 卓話
4月13日	金	お花見例会 法光寺